

作成年月日	平成26年1月14日
作成部局課室名	教育委員会事務局文化財課

兵庫県立考古博物館  
平成25年度企画展

## 「ひょうごの遺跡2014 - 調査研究速報 - 」

考古博物館の最新の調査研究成果をごらんいただく企画展です。出土品整理事業によって平成24年度に刊行した20冊の発掘調査報告書(34遺跡を所収)の中から代表的な遺跡を選び、報告書にまとめられた研究成果を展示します。

さらに、平成25年度に行われた発掘調査の最新成果の速報展示、考古博物館ボランティア“ひょうご考古楽倶楽部(こうごがくくらぶ)”の活動紹介や蓮池保育園児の卒園記念粘土細工の展示もあわせて行います。

- |         |  |
|---------|--|
| 1 会 期   | 平成26年1月18日(土)～3月30日(日)   |
| 2 休 館 日 | 月曜日  |
| 3 開館時間  | 9:30～17:00 (入場は16:30まで)  |
| 4 会 場   | 兵庫県立考古博物館 特別展示室 (加古郡播磨町大中1-1-1)  |
| 5 主 催   | 兵庫県立考古博物館  |
| 共 催     | 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部   |
| 協 力     | ひょうご考古楽倶楽部   |
| 6 観 覧 料 | 大人 200円(160円) 大学生 150円(120円)<br>高校生 100円(80円) 小学生・中学生無料<br>( )内は20名以上の団体割引料金<br>障害者およびその介護者1名、満65歳以上の方は大人料金の半額 |

### - 展覧会の構成 -

平成24年度刊行発掘調査報告書から選りすぐりの遺跡を旧国ごとに展示します。ここでは各地域でも特に注目される遺跡について紹介します。(淡路地区は該当報告書なし)

#### 丹波

市内最大級の弥生時代～古墳時代の遺跡群、三釈迦山北麓遺跡群(篠山市)では3つの集落跡と20基以上の墓が見つかりました。

集落跡には100棟近くもの竪穴住居跡があり、多数の土器や150km以上も離れた讃岐地方からはるばる運ばれた、サヌカイト製の大型石器が丹波と他地域との交流を物語ります。墓には勾玉などの玉類や耳環、鉄鏃などが副葬されていました。



三釈迦山北麓遺跡群のうち  
桂ヶ谷奥古墳出土遺物

## 但馬

寺地古墳（養父市）はたてあなけいよこぐちしき 豎穴系横口式石室をもつ古墳です。10 数 km 西の大藪古墳群では中央の墓制をとりいれた但馬最大の横穴式石室が築造されていますが、寺地古墳では在地的要素をもった別系統の葬制を取り入れていました。

石室には中が見えるように重ねた須恵器の蓋と杯が置かれ、入口付近には須恵器高杯の上に須恵器杯や蓋が置かれるなど独特な供え方がされていました。



## 播磨

飛鳥時代に建立された市之郷いちのこうはいじ 廃寺（姫路市）では、金堂跡と考えられる仏堂基壇跡や築地跡が見つかり、伽藍配置や寺域の推定が可能になりました。大量の瓦や塔の先端部である水煙片からは往時の寺の繁栄が偲ばれます。

伽藍は平安時代前期まで存続しましたが、その後荒廃し、室町時代後半には野里鋳物師が関わったと考えられる梵鐘の鋳造所となりました。

大きな鋳造遺構の切り取りを間近にすると迫力があります。



## 摂津

塚口城跡（尼崎市）では南堀が見つかり、二重堀であることが判明しました。

戦国時代に拡大整備された塚口城は、当初、織田信長に反旗を翻した荒木村重が出城として利用しましたが、後に織田方に奪われ、有岡城攻めの拠点となりました。土塁と堀は江戸時代中頃まで残り、その後埋められました。

堀から出土した戦国時代の丹波焼壺や中国製白磁皿、江戸時代の陶磁器は城が使用され、廃絶されるまでの歴史を伝えてくれます。



## 問い合わせ先

兵庫県立考古博物館 〒675-0142 加古郡播磨町大中 1-1-1

ホームページ <http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

【企画内容に関すること】担当学芸員 藤間 温子

TEL 079 - 437 - 5562（学芸直通） FAX 079 - 437 - 5599

【取材・写真提供に関すること】企画広報課

TEL 079 - 437 - 5589（代表番号） FAX 079 - 437 - 5599

